

同種施設比較分析表

同種施設比較分析表

町田市が運営している“施設”の中でも「市民センター」「図書館」といった同種の施設に着目して、新公会計制度で明らかになった情報を有効活用するため、同種施設比較分析表を作成いたしました。

同種施設の所管課は、この比較分析表を分析ツールとして、同種施設を相互に比較・分析しました。財務情報と非財務情報を交えた施設相互の分析を推進することを目的として、効率性を表す指標と経済性を表す指標等の2軸を基準とした分析グラフを活用しています。

この分析で明らかになった知見を活用して、成果の拡大や運営コストの削減を図っていきます。

※ 同種施設の相互比較にあたっては、行政費用を調整している場合があります。

<例>

忠生市民センターと忠生図書館は複合施設ですが、貸借対照表における建物（事業用資産）は、忠生市民センター費に計上されています。このため、建物の減価償却費は忠生市民センター費の行政コスト計算書にのみ計上され、忠生図書館事業の行政コスト計算書には計上されていません。

「図書館」という同種施設を比較分析するにあたっては、忠生図書館の建物に係る減価償却費を面積按分により算定し、加算しています。

同種施設比較分析表(子どもセンター)

1 各施設の情報

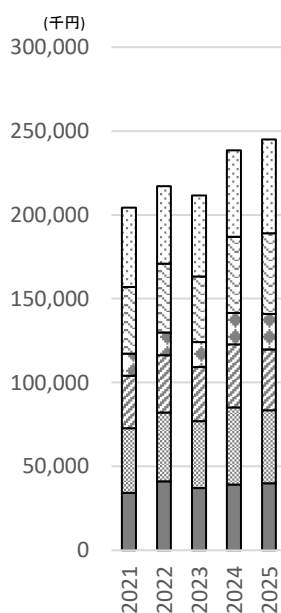
基本情報	施設名称	ばあん	つるっこ	ぱお	ぱお分館※1	ただON	まあち
建設年月日		1999年3月24日	2005年2月1日	2009年3月27日	-	2014年1月26日	2016年4月30日
有形固定資産減価償却率		44.5%	42.3%	33.2%	-	42.3%	29.0%

行政費用(千円)	人件費	39,909	43,474	36,388	21,231	48,022	55,907
	物件費	12,801	14,403	12,708	5,086	11,937	17,633
	うち委託料	7,444	8,681	6,519	1,905	6,876	9,081
	うち光熱水費	3,437	4,011	2,667	790	3,489	6,030
	維持補修費	1,194	2,614	670	118	4,725	237
	補助費等	485	281	112	37	256	429
	減価償却費	14,120	11,733	12,492		14,428	24,731
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,229	3,498	3,262	8,132	7,778	9,037
	行政費用合計	71,738	76,003	65,632	34,604	87,146	107,974

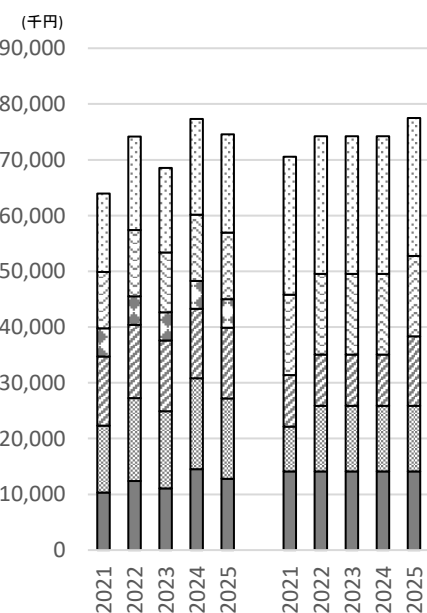
有形固定資産	建物取得価格	657,443	432,751	482,682		409,114	766,674
	建物減価償却累計額	△ 292,721	△ 183,077	△ 160,267		△ 173,132	△ 222,415
	本年度末残高	364,722	249,674	322,415		235,982	544,259

単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	1,339	1,499	1,179	405	1,564	2,018
	1㎡あたりコスト(円)	53,576	50,702	55,668	85,442	55,720	53,505
	利用者数(人)	58,719	68,229	45,857	20,697	65,469	120,641
	利用者1人あたりコスト(円)	1,222	1,114	1,431	1,672	1,331	895
	開館日数(日)	293	293	293	294	289	293
	開館1日あたりコスト(円)	244,840	259,396	224,000	117,701	301,543	368,512

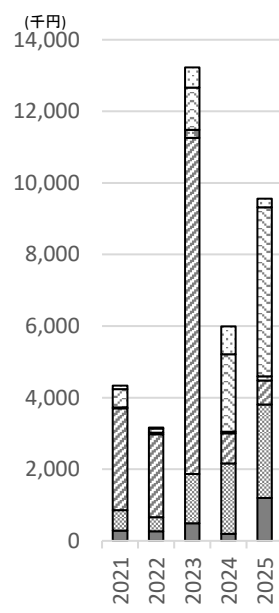
※1 ぱお分館は、民間マンションの一部を借り上げているため、減価償却費を計上していません。



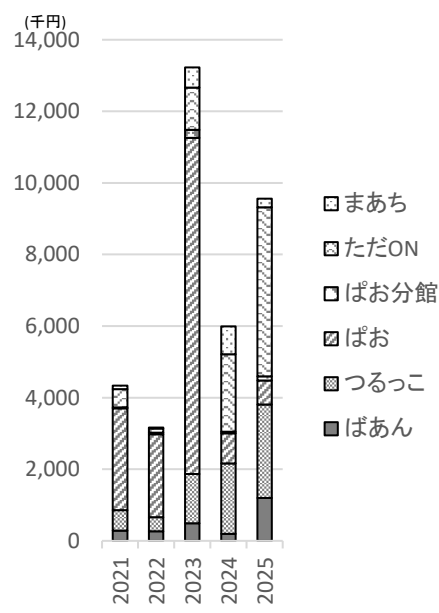
人件費



物件費

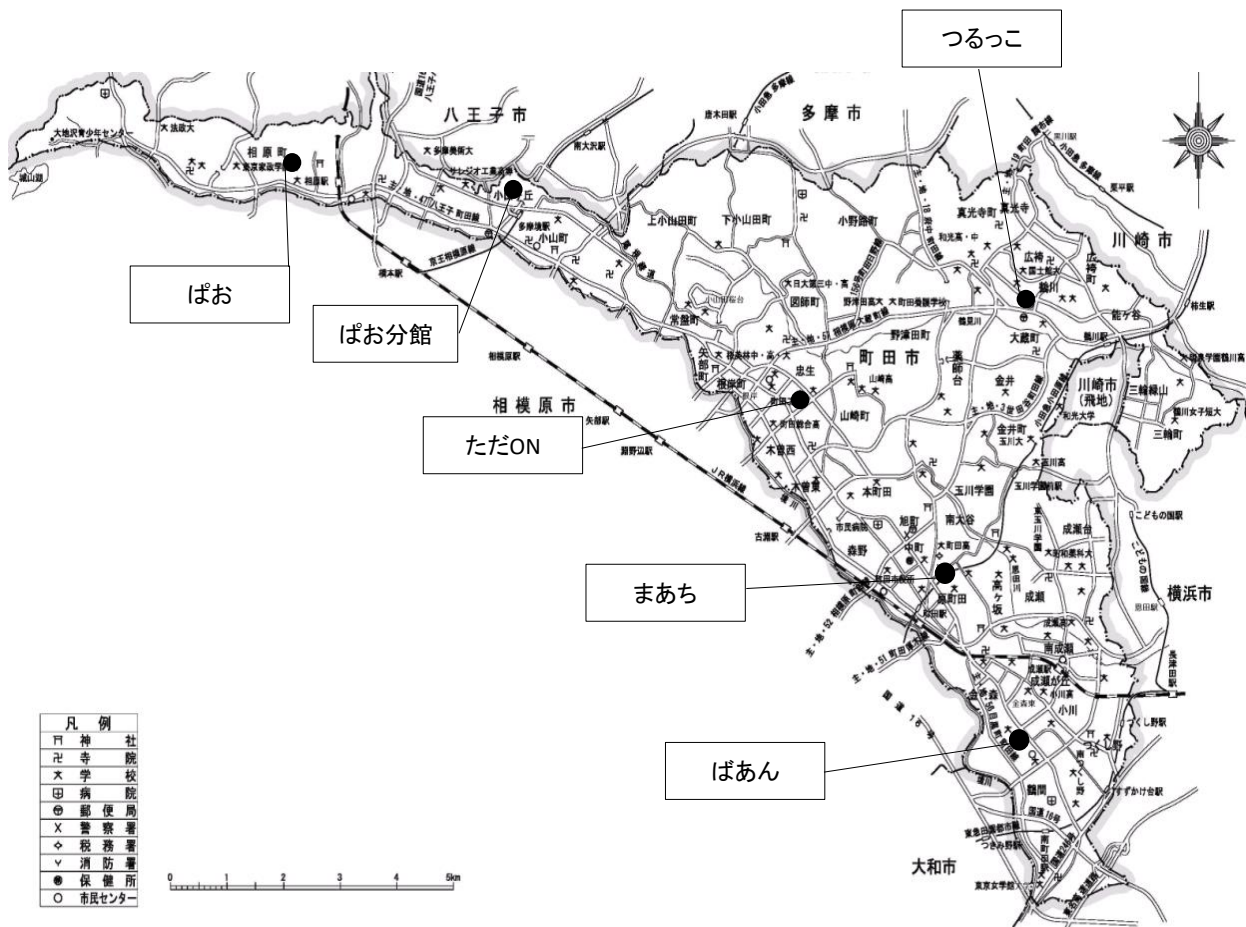


減価償却費



維持補修費

2 施設配置図



3 2024年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、関係団体との連携事業を実施するとともに、地域団体への支援を行います。 ◆子どもの意見を事業や施設運営に取り入れ、子どもの参画を推進していきます。 ◆利用者への影響が最小限となるよう、機器設備の故障時は迅速に対応します。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。 ◆施設の老朽化に伴い、計画的な修繕を実施します。

4 2025年度の取り組み状況

◆2024年度利用者満足度調査でいただいた「遊具の更新」「プログラムの土日開催」などの意見を反映し、施設運営や事業実施の充実を図りました。2025年度利用者満足度は、小学生から18歳では99.0%、保護者では99.6%と高い評価をいただきました。 ◆地域と連携した事業を通年で147回実施しました。そのうち「まちだこども選挙実行委員会」「町田第一高齢者支援センター」等、新たな地域団体と連携し、子どもたちと地域の方が触れ合い豊かな体験をする機会を創出しました。 ◆「まちだ若者大大大作戦」では、各子どもセンターの子ども委員会が合同で企画を実施し、施設の枠を超えた交流が実現しました。その他、中学生が企画した「鶴川鉄道フェス」や高校生による「防災フェス」では、地域の大人がサポートをしながら、中高生の企画を実現し、子どもの参画を推進しました。 ◆「プレイルーム壁修繕(ただON)」、「防犯カメラ機器修繕(ばあん他2施設)」など計21件の施設修繕を実施し、設備の適切な維持管理により、安心安全な居場所の継続に努めました。

5 事業の成果の年次推移

各施設利用者数

(単位:人)

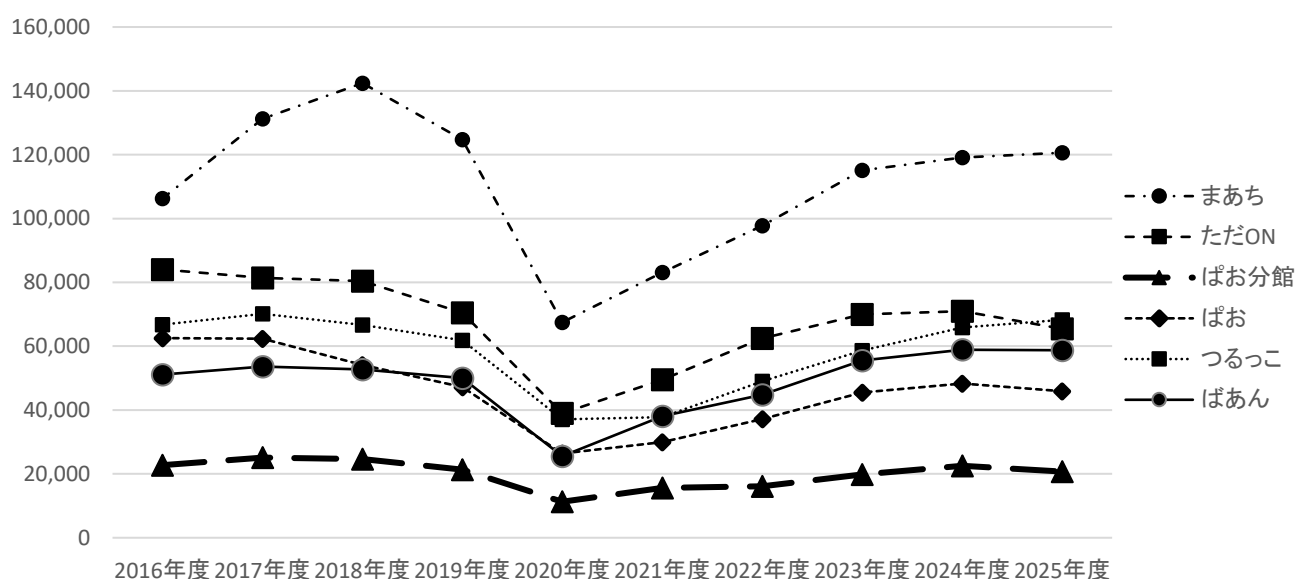
施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	計
ばあん	51,139	53,654	52,703	50,029	25,550	38,034	44,843	55,508	58,892	58,719	489,071
つるっこ	66,741	70,141	66,665	61,857	37,087	37,778	48,962	58,665	65,872	68,229	581,997
ばお	62,543	62,337	54,115	47,192	26,399	29,934	37,144	45,467	48,268	45,857	459,256
ばお分館	22,778	25,101	24,628	21,365	11,277	15,584	16,093	19,794	22,561	20,697	199,878
ただON	84,037	81,418	80,387	70,443	38,971	49,485	62,432	70,011	70,929	65,469	673,582
まあち	106,252	131,244	142,424	124,714	67,485	83,126	97,748	115,099	119,074	120,641	1,107,807
計	393,490	423,895	420,922	375,600	206,769	253,941	307,222	364,544	385,596	379,612	3,511,591

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ばあん	-	104.9%	98.2%	94.9%	51.1%	148.9%	117.9%	123.8%	106.1%	99.7%
つるっこ	-	105.1%	95.0%	92.8%	60.0%	101.9%	129.6%	119.8%	112.3%	103.6%
ばお	-	99.7%	86.8%	87.2%	55.9%	113.4%	124.1%	122.4%	106.2%	95.0%
ばお分館	-	110.2%	98.1%	86.8%	52.8%	138.2%	103.3%	123.0%	114.0%	91.7%
ただON	-	96.9%	98.7%	87.6%	55.3%	127.0%	126.2%	112.1%	101.3%	92.3%
まあち	-	123.5%	108.5%	87.6%	54.1%	123.2%	117.6%	117.8%	103.5%	101.3%

(人)



6 事業の成果の年次推移の分析

①推移の状況と要因

◆新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2019年度以降、利用者数は増加傾向でしたが、2025年度の子どもセンター全体の利用者数は、379,612人となり、2024年度と比較して5,984人(△1.6%)減少しました。一方、利用者数の対前年度比が増加した『つるっこ』では、中高生の利用者が直近10年間で最多となりました。

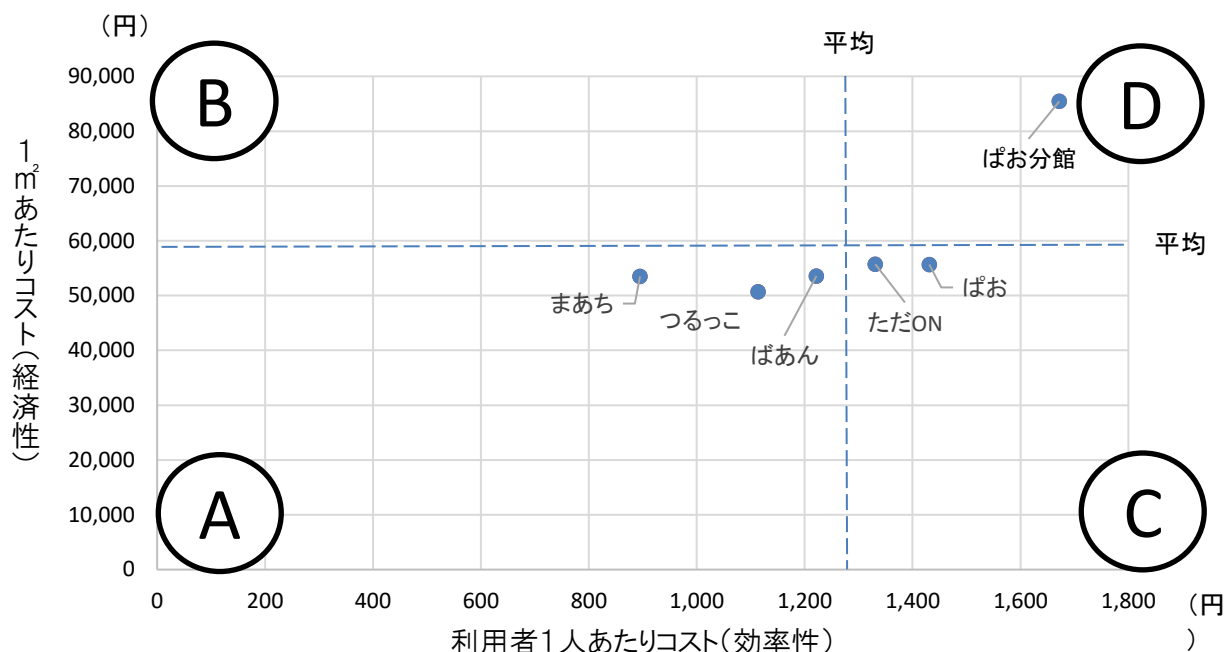
◆『ばあん』ほか3施設では、年間で利用者数が最も多い月が3月から7月または8月へと変化しました。これは、夏季の猛暑が影響したと推察されます。

②①を踏まえた今後の取り組み

◆事業や施設運営に子どもの意見を反映することで、子どもの参画を推進していきます。

◆利用者満足度調査を実施などを通じ、利用者のニーズを反映した施設運営を継続していきます。

7 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



8 分析欄

①縦軸(経済性)の分析

◆1㎡あたりコストの平均は55,097円から59,102円に4,005円増加しました。『ばあん』『つるっこ』を除く4施設では、人件費などの行政費用が増加したことにより、1㎡あたりコストが上昇しています。

◆『ばお分館』は、民間マンションのフロアを借り上げて運営しており、延べ床面積が狭いため、1㎡あたりコストが全施設で最も高くなっています。

②横軸(効率性)の分析

◆利用者1人あたりコストの平均は1,278円です。『ばあん』『つるっこ』を除く4施設では、人件費などの行政費用が増加したことにより、利用者1人あたりコストが上昇しました。

◆『ただON』では、「プレイルーム壁修繕」や「LED照明更新修繕」などを行ったため維持補修費が増加したほか、選挙投票所として使用され開館日数が減少したことで利用者が減り、利用者1人あたりコストが上昇しました。

◆利用者の増加に向け、『ばあん』『ばお』『ただON』での親子向け事業の拡充、『つるっこ』での乳幼児室のレイアウト見直し、『まあち』でのキッチンカー出店などを実施しました。

9 分析を踏まえた事業の課題

◆利用者数が横ばい傾向の中、引き続き、子どもたちが安心して利用し、高い満足を得られる居場所を運営していく必要があります。

◆すべての施設が建設から10年以上経過しているため、施設の老朽化や機器設備の故障に適切に対応し、安全安心に利用できるように施設を維持管理していく必要があります。

◆地域における子どもの居場所の充実を図るため、地域団体と連携していく必要があります。

◆事業や施設運営、地域支援等において、子どもの参画を推進していくことが求められています。

10 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、関係団体との連携事業を実施するとともに、地域団体への支援を行います。 ◆子どもの意見を事業や施設運営に取り入れ、子どもの参画を推進していきます。 ◆利用者への影響が最小限となるよう、機器設備の故障時は迅速に対応します。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。 ◆施設の老朽化に伴い、計画的な修繕を実施します。

同種施設比較分析表(子どもクラブ)

1 各施設の情報

基本情報	施設名称	玉川学園※1	南大谷※1	木曽	小山	南町田※2	三輪	小山田
	建設年月日	-	-	2018年1月5日	2019年12月21日	2019年11月13日	2020年6月8日	2023年7月15日
	有形固定資産減価償却率	-	-	36.5%	26.0%	-	28.5%	9.7%

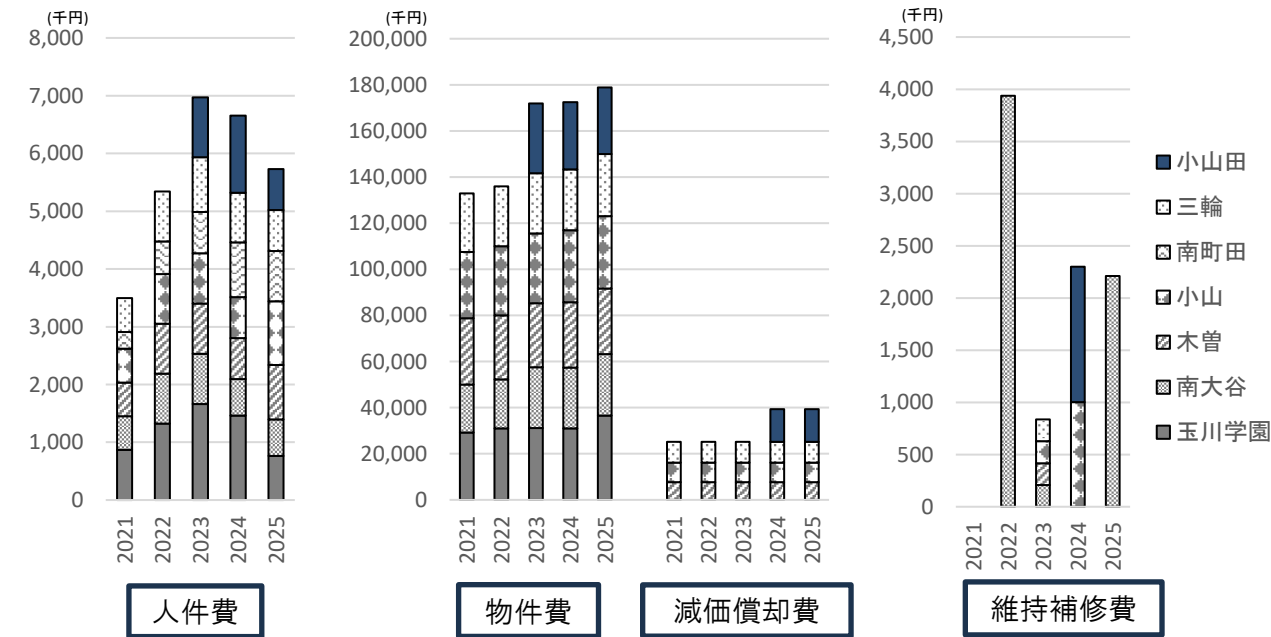
行政費用（千円）	人件費	765	630	945	1,103	866	709	709
	物件費	36,544	26,678	28,494	31,335	0	26,896	28,909
	うち委託料	36,338	26,678	28,494	31,335	0	26,896	28,909
	うち光熱水費	206	0	0	0	0	0	0
	維持補修費	0	2,211	0	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0	38,983	0	0
	減価償却費			7,715	8,461		8,973	14,147
	賞与・退職手当引当金繰入額	74	103	369	535	84	69	69
	行政費用合計	37,383	29,622	37,523	41,434	39,933	36,647	43,834

有形固定資産	建物取得価格			169,144	195,512		188,813	293,056
	建物減価償却累計額			△ 61,722	△ 50,764		△ 53,836	△ 28,295
	本年度末残高			107,422	144,748		134,977	264,761

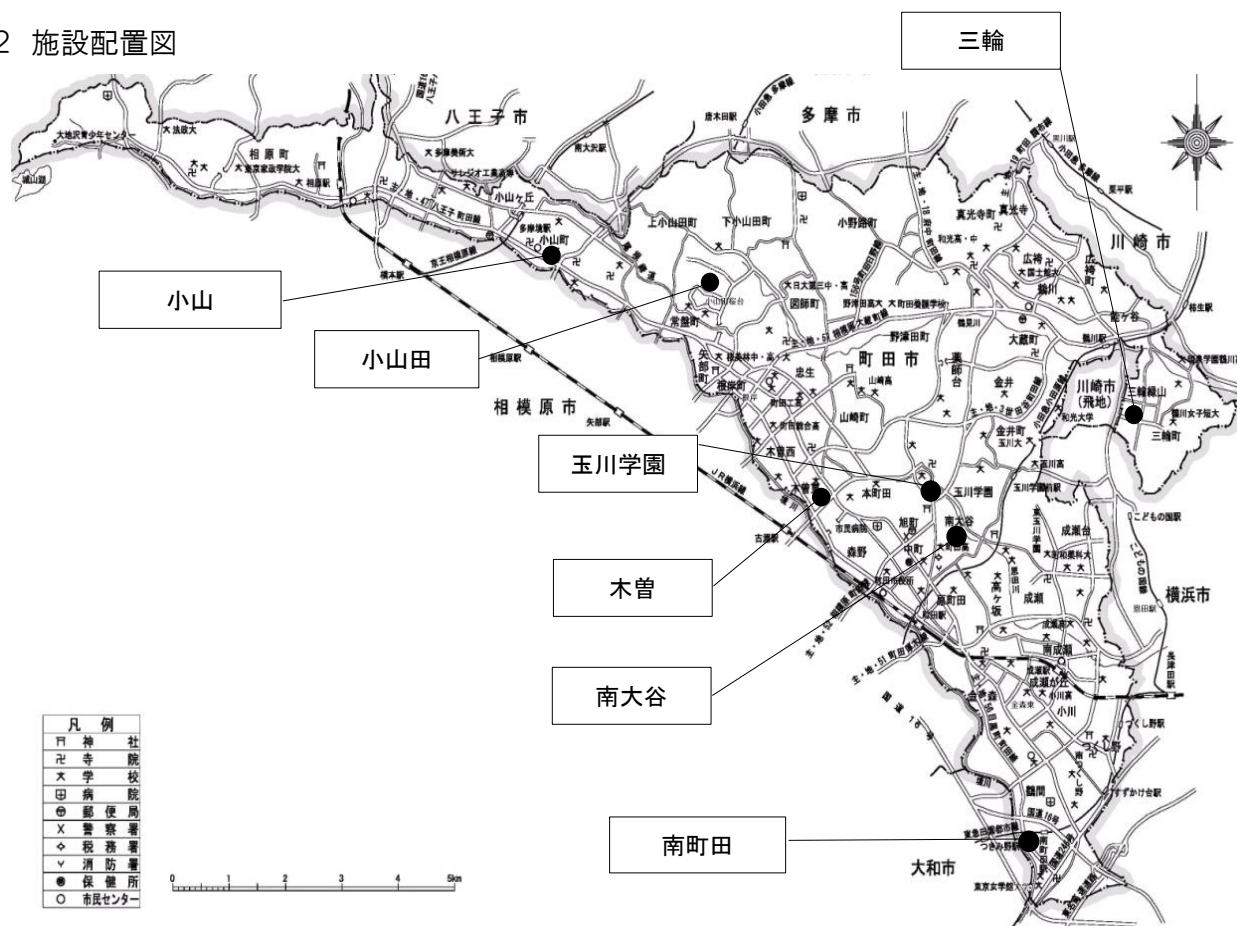
単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	439	360	472	469	441	484	483
	1㎡あたりコスト(円)	85,155	82,283	79,498	88,345	90,551	75,717	90,754
	利用者数(人)	40,126	24,692	22,969	23,554	79,571	26,866	26,055
	利用者1人あたりコスト(円)	932	1,200	1,634	1,759	502	1,364	1,682
	開館日数(日)	292	292	292	292	290	292	292
	開館1日あたりコスト(円)	128,024	101,445	128,503	141,897	137,700	125,503	150,116

※1 玉川学園、南大谷、南町田は市が所有する建物ではないため、減価償却費を計上していません。

※2 成瀬子どもクラブについては、2025年度の開館期間が1週間に満たないため、本分析表に掲載していません。



2 施設配置図



3 2024年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、地域の関係団体と連携した施設運営を行います。 ◆子どもクラブの整備を進めます。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。

4 2025年度の取り組み状況

- ◆子どもクラブ全体の利用者数について、2025年度は過去最高となる243,833人の方にご利用いただき、2024年度に比べて4,908人増加(+2.1%)しました。
- ◆「防災イベント」など地域と連携したイベントの実施(玉川学園)や、乳幼児向けのイベントを多数実施(南町田)したことにより、利用者数は、7館中4館で増加(玉川学園:+7.0%、南大谷:+2.0%、南町田:+3.3%、小山田:+2.5%)しました。
- ◆民間事業者のノウハウを活かした運営により、利用者満足度はすべての施設で高い水準を維持しており、平均値は99%でした。
- ◆近隣の大学や子どもセンターなど地域の関係団体と連携をしながら、共催行事を実施しました。
- ◆子どもたち自らイベントの企画立案などを行う「子どもクラブ委員会」に継続して取り組み、子どもの参画を推進しました。
- ◆職員の資質向上を図るため、子どもセンターと合同で「地域コーディネート力向上研修」を実施しました。地域の方々と連携し、子どもとその保護者のための拠点を充実させるにはどのような対応をすればよいのか学び、安心して利用できる環境づくりを進めました。

5 事業の成果の年次推移

各施設利用者数

(単位:人)

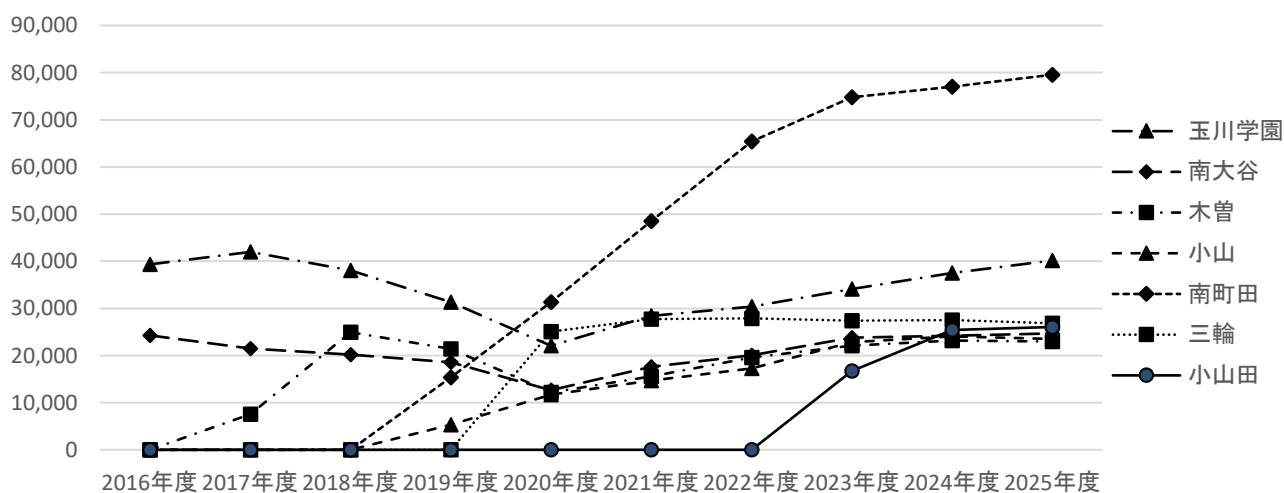
施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	計
玉川学園	39,346	41,979	38,046	31,356	22,074	28,412	30,387	34,106	37,512	40,126	343,344
南大谷	24,293	21,453	20,165	18,587	12,649	17,590	20,067	23,814	24,215	24,692	207,525
木曽	-	7,583	24,937	21,412	12,160	15,562	19,609	22,074	23,156	22,969	169,462
小山	-	-	-	5,326	11,680	14,721	17,297	22,823	24,062	23,554	119,463
南町田	-	-	-	15,354	31,345	48,483	65,411	74,795	77,054	79,571	392,013
三輪	-	-	-	-	25,109	27,748	27,887	27,365	27,517	26,866	162,492
小山田	-	-	-	-	-	-	-	16,700	25,409	26,055	68,164
計	63,639	71,015	83,148	92,035	115,017	152,516	180,658	221,677	238,925	243,833	1,462,463

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
玉川学園	-	106.7%	90.6%	82.4%	70.4%	128.7%	107.0%	112.2%	110.0%	107.0%
南大谷	-	88.3%	94.0%	92.2%	68.1%	139.1%	114.1%	118.7%	101.7%	102.0%
木曽	-	-	-	85.9%	56.8%	128.0%	126.0%	112.6%	104.9%	99.2%
小山	-	-	-	-	-	126.0%	117.5%	131.9%	105.4%	97.9%
南町田	-	-	-	-	-	154.7%	134.9%	114.3%	103.0%	103.3%
三輪	-	-	-	-	-	-	100.5%	98.1%	100.6%	97.6%
小山田	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102.5%

(人)



6 事業の成果の年次推移の分析

①推移の状況と要因

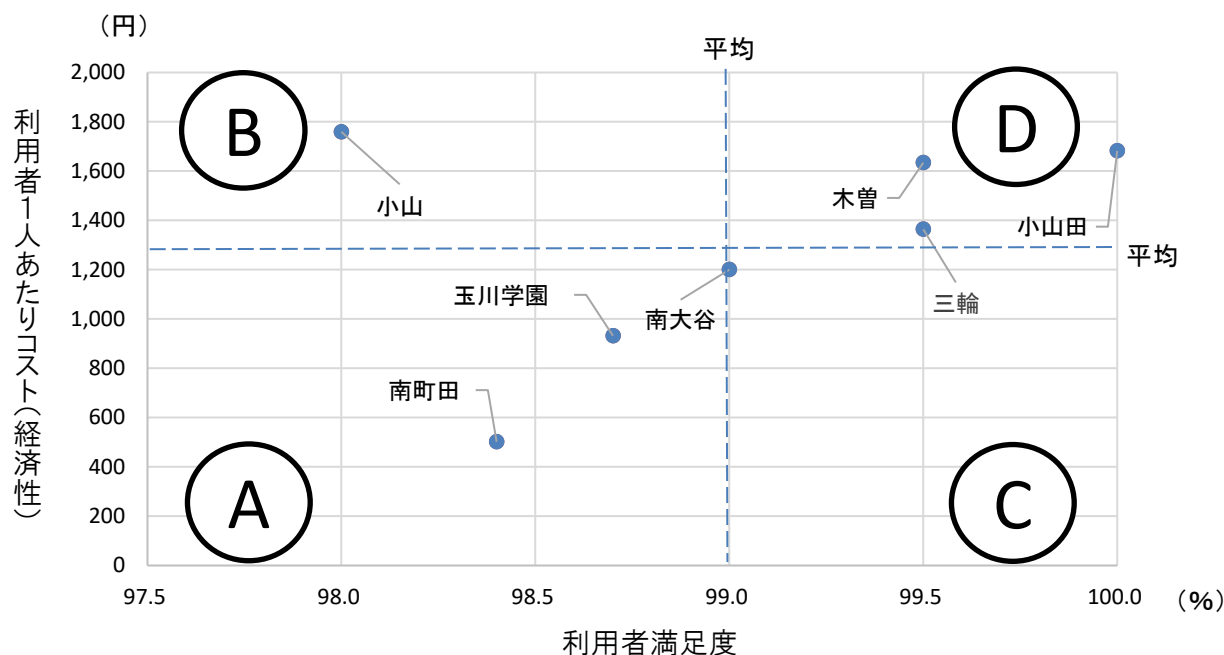
◆2017年度に1館、2019年度に2館、2020年度に1館、2023年度に1館の子どもクラブを開館したことなどにより、2017年度以降、利用者数は増加し続けています。2025年度は過去最高となる243,833人の方にご利用いただき、2024年度に比べて4,908人増加(+2.1%)しました。また、2026年3月25日には8館目となる成瀬子どもクラブが開館しました。

②①を踏まえた今後の取り組み

◆現在、金井・薬師地域に新たな子どもクラブの整備を進めているため、さらなる利用者の増加が見込まれます。開館するクラブに関しては、新たな利用者が定着するよう地域と連携していきます。

◆全体の取り組みとしては、地域のニーズを踏まえた利用者サービスの充実を図り、利用者満足度の向上や利用者数の増加に努めます。

7 経済性・利用者満足度を軸にした分析グラフ



8 分析欄

①縦軸(経済性)の分析

◆南町田(502円)は、利用者数が79,571人と全施設で一番多く、南町田グランベリーパークを訪れた方の利用の影響があったと考えます。

◆全体として利用者数は増加傾向にあります。

◆2023年度に開館した小山田は、価格高騰の影響から建設時にかかった費用が高いため、減価償却費も他施設に比べて高くなり、利用者1人あたりのコストも高くなっています。

②横軸(利用者満足度)の分析

◆利用者満足度はいずれの施設も高い水準となっています。今後も、地域のニーズを踏まえた施設運営や地域と連携したイベントを実施することで、利用者満足度が高い状態を維持できるよう努めます。

9 分析を踏まえた事業の課題

◆子どもクラブ整備を着実に進める必要があります。

◆地域のニーズを踏まえた施設運営や地域と連携したイベントの実施により、利用者満足度の向上や利用者数の増加に努める必要があります。

10 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、地域の関係団体と連携した施設運営を行います。 ◆(仮称)金井・薬師子どもクラブの整備を進めます。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。

同種施設比較分析表(図書館)

1 各施設の情報

基本情報	施設名称	中央	さるびあ	金森 ^{※1}	忠生 ^{※2※3}	木曽山崎	堺 ^{※2}	鶴川駅前 ^{※2}
	該当ページ	144	146	148	150	152	154	156
	建設年月日	1990年4月16日	1972年5月22日	2000年7月4日	2015年2月27日	1976年3月25日	1983年9月25日	2012年8月31日
	有形固定資産減価償却率	71.2%	77.2%	-	-	71.1%	-	-

※鶴川図書館は、民営化に伴い2025年度決算以降本分析表から除外しています。

行政費用(千円)	人件費	372,009	107,117	84,113	69,433	49,612	56,290	4,322
	物件費	140,848	40,973	43,377	41,882	13,588	24,214	142,887
	うち委託料	58,009	8,274	8,819	13,139	2,750	9,047	116,607
	うち光熱水費	13,943	4,833	3,101	2,016	1,571	871	-
	維持補修費	2,753	1,109	735	0	2,967	319	0
	補助費等	70,445	15	10	7	10	6	2
	減価償却費	34,830	1,806		14,883	3,177	6,176	19,436
	賞与・退職手当引当金繰入額	37,061	9,791	8,343	6,517	15,012	5,545	2,502
	行政費用合計	657,946	160,811	136,578	132,722	84,366	92,550	169,149

単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	5,968	1,318	1,500	1,229	320	430	1,332
	1㎡あたりコスト(円)	110,246	122,011	91,052	107,992	263,644	215,233	126,989
	貸出者数(人)	255,970	76,966	148,595	95,754	49,901	23,995	139,560
	貸出者1人あたりコスト(円)	2,570	2,089	919	1,386	1,691	3,857	1,212
	開館日数(日)	301	304	304	304	304	226	338
	開館1日あたりコスト(円)	2,185,867	528,984	449,270	436,586	277,520	409,513	500,441
	貸出点数(点)	782,572	277,858	571,169	390,874	156,409	109,985	412,394
	貸出1点あたりコスト(円)	841	579	239	340	539	841	410

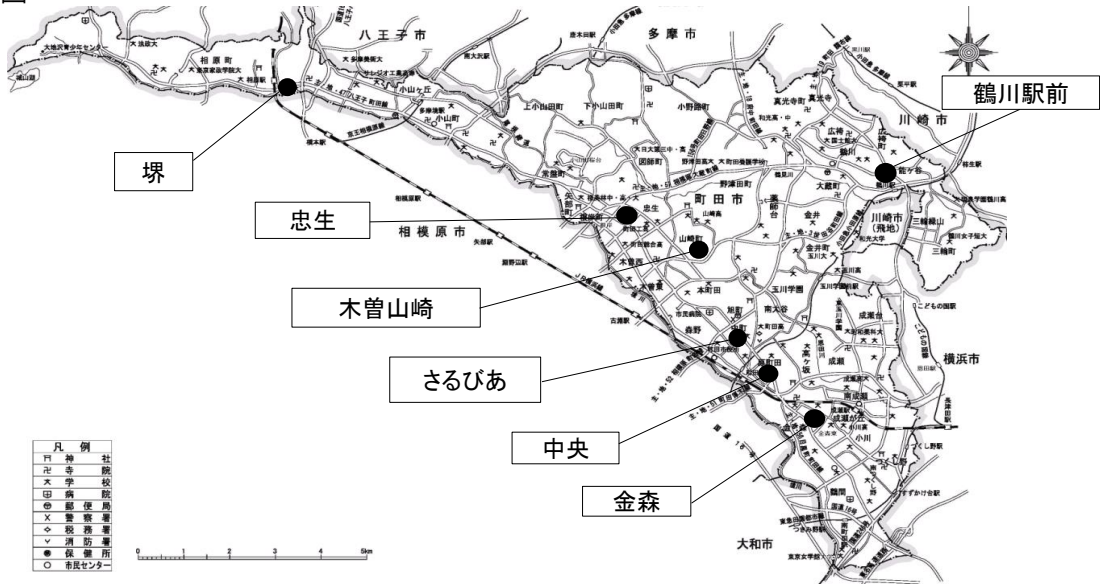
※1 施設を東京都から無償で借りて運営している金森については、減価償却費を計上していません。

※2 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。そのため、有形固定資産減価償却率は空欄にしています。

	忠生	堺	鶴川駅前
減価償却費(千円)	53,209	41,125	87,245
複合施設全体面積(㎡)	4,687	2,863	5,979
図書館面積(㎡)	1,229	430	1,332
按分減価償却費(千円)	13,952	6,176	19,436

※3 忠生図書館の減価償却費は、建物減価償却費13,952千円及び重要物品減価償却費931千円を合算して14,883千円としています。

2 施設配置図



3 2024年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

<短期的な取り組みとして>

- ・学校との連携を継続し、電子書籍サービスの利用促進や新図書館システム機能をPRし、新規利用の増加を目指します。
- ・つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の運営支援を継続します。
- ・図書館プランナーの提案されるイベントの実現を推進します。
- ・地域の意見を踏まえ、さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、移動図書館や学校図書館支援貸出などの機能再編方法を決定します。

<中長期的な取り組みとして>

- ・「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。

4 事業の成果の年次推移

各施設利用人数

(単位:人)

施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	計
中央	652,053	613,940	608,275	553,290	395,769	460,293	526,063	546,529	538,159	464,631	5,359,002
さるびあ	215,739	211,204	226,922	183,144	124,522	131,462	126,860	141,863	140,581	124,720	1,627,017
金森	263,278	258,845	258,351	236,446	203,724	179,945	229,659	239,392	283,405	206,541	2,359,586
忠生	202,471	211,263	217,757	200,851	148,402	151,719	161,560	159,880	151,201	175,288	1,780,392
木曽山崎	197,516	168,224	196,371	199,870	141,259	165,898	163,306	169,078	150,066	102,009	1,653,597
堺	85,684	35,666	73,589	67,791	49,028	62,697	61,569	60,697	52,373	36,342	585,436
鶴川駅前	376,665	343,326	334,522	307,459	218,610	265,508	350,194	353,399	390,270	328,479	3,268,432
計	1,993,406	1,842,468	1,915,787	1,748,851	1,281,314	1,417,522	1,619,211	1,670,838	1,706,055	1,438,010	16,633,462

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中央	-	94.2%	99.1%	91.0%	71.5%	116.3%	114.3%	103.9%	98.5%	86.3%
さるびあ	-	97.9%	107.4%	80.7%	68.0%	105.6%	96.5%	111.8%	99.1%	88.7%
金森	-	98.3%	99.8%	91.5%	86.2%	88.3%	127.6%	104.2%	118.4%	72.9%
忠生	-	104.3%	103.1%	92.2%	73.9%	102.2%	106.5%	99.0%	94.6%	115.9%
木曽山崎	-	85.2%	116.7%	101.8%	70.7%	117.4%	98.4%	103.5%	88.8%	68.0%
堺	-	41.6%	206.3%	92.1%	72.3%	127.9%	98.2%	98.6%	86.3%	69.4%
鶴川駅前	-	91.1%	97.4%	91.9%	71.1%	121.5%	131.9%	100.9%	110.4%	84.2%

(人)

700,000

600,000

500,000

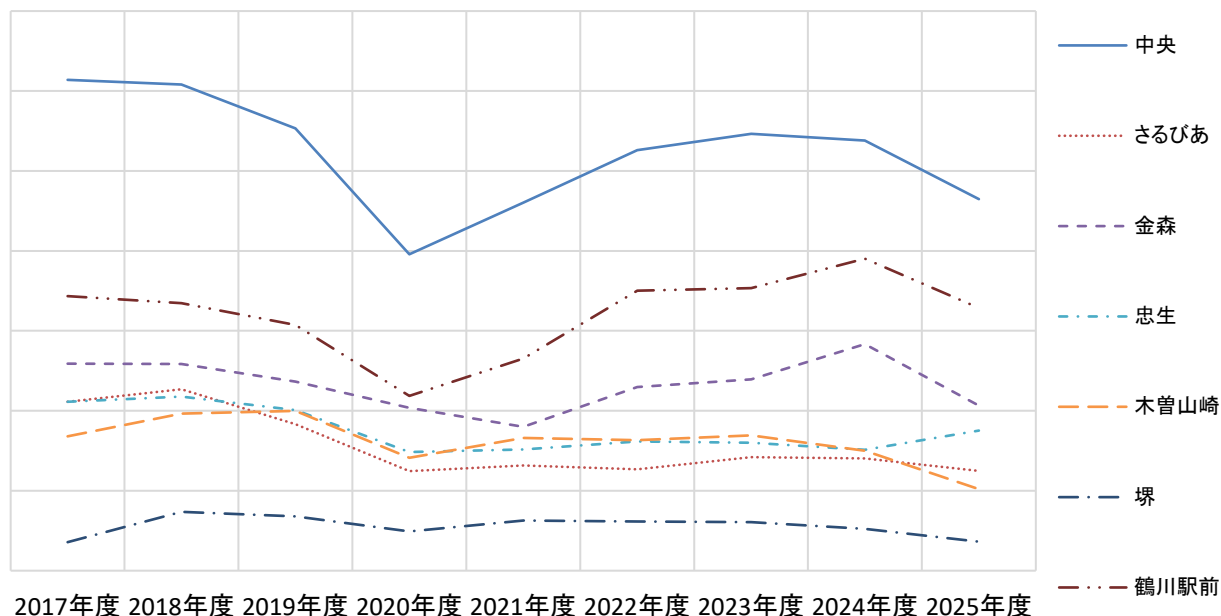
400,000

300,000

200,000

100,000

0



5 事業の成果の年次推移の分析

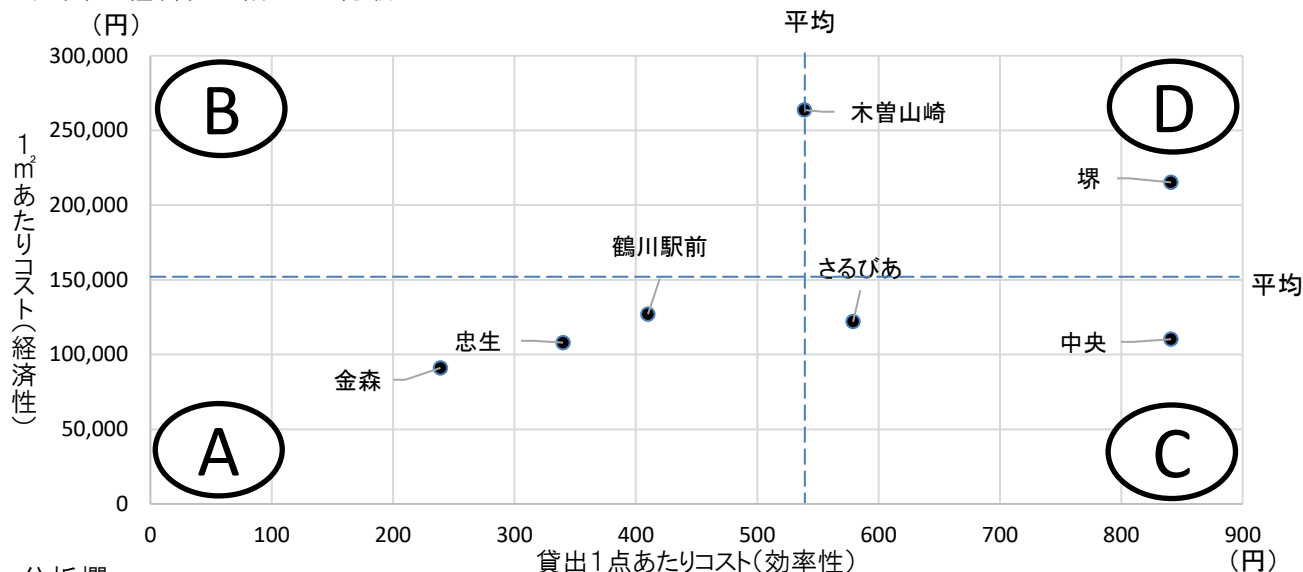
①推移の状況と要因

各施設利用人数は、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、2021年度以降は施設利用人数の回復がみられましたが、鶴川図書館の閉館、堺市民センターの大規模改修による堺図書館の休館に加えて、システム更改に伴う計測機器の入れ替えの影響などにより、2025年度の利用人数は2024年度よりも268,045人減少しました。

②①を踏まえた今後の取り組み

「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進することによって、来館者数の増加に努めます。

6 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



7 分析欄

①人件費の特徴について

・中央図書館、中規模館(さるびあ・金森・忠生・鶴川駅前)、小規模館(木曽山崎・堺)の3グループで、それぞれ人員配置が異なるため、規模に応じた人件費を支出しています。中央図書館は他の図書館のバックアップに加え、レファレンス(参考調査)、視覚障がいのある方への対面朗読や録音図書資料、来館困難者への宅配サービス、視聴覚資料等の独自サービスを行い、人員を最も多く配置しているため人件費が高くなっています。

また、さるびあ図書館と堺図書館は移動図書館を運営しており、他の同規模館より人員を多く配置しているため人件費が高くなっています。

②施設規模の特徴について

・施設運営に最低限必要な人員を配置しているため、小規模館は、1㎡あたりコストが中央図書館や中規模館よりも相対的に高くなっています(D区分)。

③貸出点数の特徴について

・中央図書館に次ぐ貸出点数がある金森図書館は、貸出1点あたりコストが最も低くなっています。また、移動図書館を運営している、さるびあ図書館と堺図書館は、他の同規模館より貸出1点あたりコストが高くなっています。

8 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

<短期的な取り組みとして>

・電子書籍サービスの利用促進のために、学校を中心にさらなるPRに取り組むとともに、学校との連携を継続します。

・引き続き、FC町田ゼルビアとのコラボ企画を実施し、来館者数の増加に繋げていきます。

・若者からの提案を実現できるよう、図書館プランナーによるイベントの実現を推進します。

<中長期的な取り組みとして>

・「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。